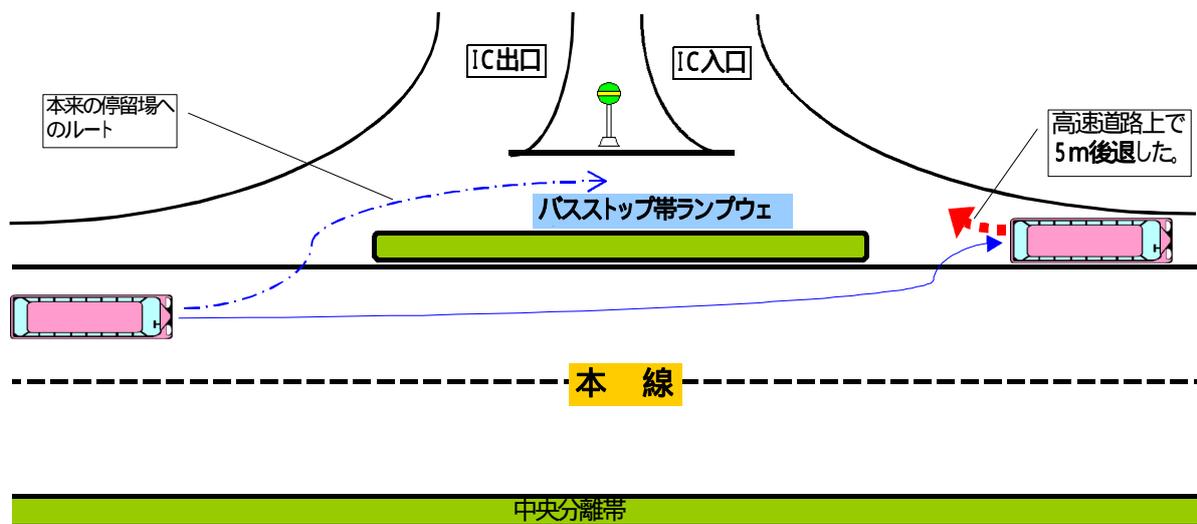


## 事故事例〔バス 2〕

曜日・時間・天候	木曜日・18時10分・不明
場所	高速自動車道ランプウェイ インターチェンジとバス停の複合ランプ
道路の状況	乾燥 幅員9.0m
運転者	年齢53歳 運転歴4年8ヶ月
乗務開始～事故発生 の乗務距離	147.3km(路線高速バス、2往復目の復路)
損害	乗客が降車する停留場で下車できなかった。(苦情4件)

### 〔事故概要〕

路線高速バスの運行で当日2往復目の復路運行において、高速道路上のバスストップ帯の停留場を通過してしまい、車内乗客のざわめきにより通過に気づきバスストップ帯ランプウェイ出口上で停止し、5m程後退したランプウェイ内で停車した。そこで乗客に停留場通過について謝罪し次の停留場で下車いただき対向バスに乗車するようお願いし次の停留場に向け発進した。



種別・業態	普通・一般乗合(路線高速バス)
乗車定員	52名
当時の乗車定員	13名

### 【事故の推定原因】

運転に集中しておらずぼんやりしていた。(漫然運転)

### 【事故の要因】

停留場通過に気づき慌ててしまった。  
高速道路ではあったが本線ではなくランプウェイであった。

#### 【運転ミス要因(心身、態度、技術)】

ぼんやり運転ミスによりバスストップ帯を通過してしまったことに気づき慌てた。  
ランプウェイ出口付近で停止したことから安全と思い後退してしまった。

### 【再発防止対策】

停留場通過の際のマニュアルの作成及びそれに係る指導教育  
高速道路の運行における留意点等の指導の徹底  
運行に際してのプロドライバーとしての意識と責任感に関する指導  
乗務員に対する安全運行のための基本動作励行指導及び監督の徹底